

●発行 北川副まちづくり協議会 【事務局：TEL0952-23-3086 北川副公民館内】

わが町 よかところ探し

新興住宅地として開発が進む北川副地区。町づくりを考える上で欠かせない地域の歴史や伝統、旧跡からホットな話題まで「わが町のよかところ」にスポットを当てるコーナーです。

第4回

枝吉 地域のランドマーク「ボルガ」

一日1万9千台が通行する県道環状東部線と県道佐賀大川線が交わる枝吉東交差点北西角に佇む洋風でオレンジ色のモダンな建物「ボルガ」。枝吉の、地域のランドマークとして親しまれています。

先代から受け継いだ広い瓦焼き店舗跡地を活用して、コーヒー好きな坂井昭義・綾子夫妻が1971年(昭和46年)に郊外型喫茶店の走りとして、友人が覚えやすい名前がよいとボルガと命名し、一杯180円でスタート。開店のころは小城・清水から名水をタンクで運び、美味しいコーヒーを立て、それが評判を呼び、人気の店になりました。喫茶店ブームに乗りてんてこ舞いの忙しさでした。今年で52年を迎え、佐賀市内でも老舗カフェのひとつ。創業者の一人綾子さん(79)はいまも元気にレジに立ち「看板娘」として、いつも変わらぬ笑顔で店を切り盛りしています。

枝吉は「佐賀県の地名」によると川副上郷に属する郷宿。下今宿から佐賀江川と平行に走る蓮池往還の城下への出入

口に位置し、枝吉口には番所が設けられていた、と紹介されています。

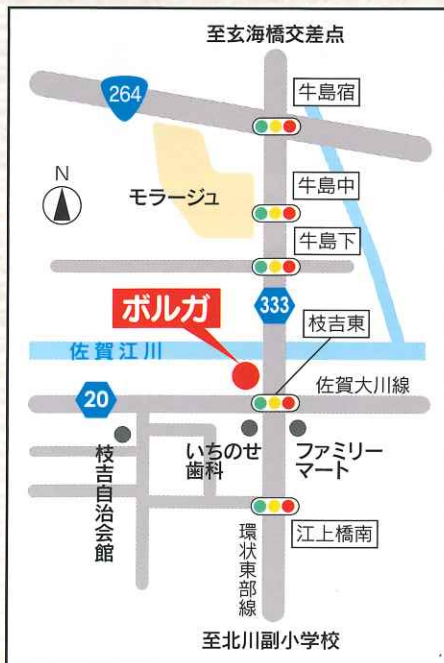
現在の枝吉町区は、市営バス蓮池線沿いに広がる田園地帯でありましたが、1972年ごろ(昭和47年から48年)から県道佐賀大川線南の宅地造成が進み徐々に住宅が増え、今は昔の田園の面影は残っていません。最近若いファミリーの転入も増えてきています。新旧の住人が混住する、住み心地のいい町です。世帯数は約180世帯です。

ボルガ東側を走る道路は市道から1996年(平成8年)に県道に格上げされ、二度の拡幅を経て現在2車線の整備が進められています。いまはベーカリー&カフェ「バッケンハイムボルガ」と店名を変え、息子の啓太さん(57)が経営を引き継いでいます。北川副校区のランドマークとして、これからも枝吉町区民の暮らしを見続けます。

(校区社会福祉協議会・山下龍男)



開店52年を迎えた枝吉の、地域のランドマーク「バッケンハイムボルガ」



行事報告

北川副校区桜まつり 3年ぶりに開催 多彩な催しに2千人が春を満喫

北川副校区の春を彩る桜まつりが3月26日(日)に校区のオアシス、南佐賀公園一帯で3年ぶりに開催されました。多彩なアトラクションで盛り上がり各種模擬店も大盛況。満開間近の桜に囲まれたイベントゾーンで約2000人が北川副の春を満喫しました。

校区の自治会長会やスポーツ協会、女性の会、子ども会など各種団体で構成する北川副まちづくり協議会(福田忠利会長)挙げての恒例イベントです。小雨がぱらついたお天気も昼前には回復。コロナ禍でここ2年、中止を余儀なくされていただけに、待ちかねたように家族らが会場を訪れました。

ステージでは演奏や人気キャラクターショーなどが繰り広げられ、大道芸も人気の的に。旧佐賀線の徐福サイクルロードでは桜並木の下でウォーキングを楽しみ、佐賀工業高に依頼して新調した足湯おけとベンチ10セットを配した足湯コーナーも好評でした。

各団体による模擬店は大にぎわい。焼きそばやカレーライス、ぜんざいをはじめ地元で採れた新鮮な野菜類が安価で販売され、焼きそばは用意した600食が早々と完売、カレーライスコーナーは提供が追いつかないほどでした。(自治会長会・宮崎俊一)



大勢の人出でにぎわった北川副桜まつり



演奏や人気キャラクター登場で盛り上がったステージ



桶を新調した足湯コーナー

2023 3月26日(日) 10:00~15:00頃
桜まつり
北川副校区
会場 徐福サイクルロード 南佐賀公園
雨天中止
【主催：北川副まちづくり協議会 ☎23-3086】

楽しいイベントがいっぱい!!
おいしい食べ物もいっぱい!!

北川副足湯コーナーが新装開店します
日本の名湯巡りはいかが?
北川副おいしいマルシェ
焼きそば・カレー
うどん・コーヒー・ぜんざい
他にも産直野菜、お菓子やパン・手作り小物
色んなお宝が出るよ

子どものあそび場:キッズステーション
わなげ・魚釣りゲーム
音遊びコーナー

ステージアトラクション
大道芸人 フーミント
キッズダンス JUMP
バナナのたき売りとひよっこご踊り
えびす音頭 沖縄三線二ライカナイ 他

ポスターも作成しました!

なんと600食も!!



600食を完売した焼きそばコーナー

北川副公民館に 「おかえりな『サイ』運動」の 横断幕があがる

毎朝いっせいに列をなして子供たちが学校に向かって歩き出す。胸いっぱい新しい朝の空気を吸い込みながら「おはようございます」「おはよう」明るい声がこだます。いつのころからか心ある地域住民の見守り活動が続いている、微笑ましいいつもの朝の風景である。



一方で夕方は朝とはまるで違っている、大人の見守りはほとんど見られない。自宅が学校から離れた子供も多くいる。黄色いカバーの大きめのランドセルがトボトボと自宅に向かって帰る姿はいかにも弱々しく危なげで見とられない。こんな時を狙う暗い悪魔が居る。

下校時のこうした時間帯にこそ子供達にあなたのあたたかな目を向けて頂きたい、この想いを込めて、青少年を守る四団体(北川副小学校 PTA、城南中学校 PTA、子ども会、青少年健全育成会)とまちづくり協議会心育む部会では、散歩や買い物など街角で、ながら見守りを行う「北川副おかえりなさい運動」に取り組んでいる。この度、それを広く知ってもらうため、「北川副のサイちゃん」も見守る横断幕が出来上がりました。

子供の笑顔が宝です。(心育む部会・福田英典)



行事報告

【3.11東日本大震災防災訓練】公民館、小学校で防災訓練

北川副自主防災実践本部（俣野初朗本部長）は3月12日、各町区、公民館、北川副小学校で防災研修を実施、100名余りが参加しました。



8時から「震度5の地震発生」の情報伝達から始まり、要援護者の安否確認等を行い、各町区公民館などへの避難訓練が行われました。



防災倉庫での点検

10時から各町区

での訓練状況の報告が北川副公民館で行われました。まず、佐賀市危機管理防災課から避難所開設・運営モデルについて説明がありました。次に自主防災実践本部の取り組みについて報告があり、公民館と北川副小学校にある佐賀市防災倉庫と自主防災実践本部の防災倉庫での点検が行われました。点検後、給食給水班による炊き出しが行われました。

（広報委員・横尾浩明）



各町区での訓練状況報告

【環境保健推進協議会】富士町で植樹

佐賀市環境保健推進協議会北川副地区実践本部（福田忠利本部長）では、2月19日佐賀市富士町で実施された株式会社田島（代表取締役 田島広一）の「TAJIMA 創業100周年記念植樹イベント」に女性の会16名が参加しました。

「豊かな佐賀の自然を守り、子どもたちの笑顔を未来に繋いでいく

きっかけとして、みんなで一緒に植樹をしませんか？」呼びかけに公民館に9時集合。バスに揺られて富士町関屋へ。前日は雨が降り、当日一応雨はあがりましたが…山の斜面はぬかるみだらけです。ヘルメット、



手袋、スコップ等を主催者から貸し出しを受け、いざ山へ。斜面へ。穴を掘り、植樹して、肥料を入れ穴に再び土を入れ、竹の杖立をして縄で結び、無事完了！子供達の笑顔や若い人達の黄色い声に、すすく伸びる桜の木等が楽しみです。

我々は天国(?)から眺めることでしょうか。最後は豚汁のお振舞いに心も身体も温まりました。

（女性の会・鯖瀬明美）

